

学習指導要領	葛飾総合高校 学カスタンダード
(1) 世界史への扉 自然環境と人類のかかわり、日本の歴史と世界の歴史のつながり、日常生活にみる世界の歴史にかかわる適切な主題を設定し考察する活動を通して、地理と歴史への関心を高め、世界史学習の意義に気付かせる。 ア 自然環境と人類のかかわり 自然環境と人類のかかわりについて、生業や暮らし、交通手段、資源、災害などから適切な歴史的事例を取り上げて考察させ、世界史学習における地理的視点の重要性に気付かせる。 イ 日本の歴史と世界の歴史のつながり 日本の歴史と世界の歴史のつながり日本と世界の諸地域の接触・交流について、人、もの、技術、文化、宗教、生活などから適切な歴史的事例を取り上げて考察させ、日本の歴史と世界の歴史のつながりに気付かせる。 ウ 日常生活にみる世界の歴史 日常生活にみる世界の歴史について、衣食住、家族、余暇、スポーツなどから適切な事例を取り上げて、その変遷を考察させ、日常生活からも世界の歴史がとらえられることに気付かせる。 人類は各地の自然環境に適応しながら農耕や牧	・「世界史への扉」は主題を選択して行ない、世界史学習への導入とする部分である。その趣旨に従い、開始当初では「ア 自然環境と人類のかかわり」の主題を選択し、生徒が地理的視点の重要性に気付く。 ・教科書及び副教材の表紙ページにある世界地図及び世界の気候風土の写真を、細かく観察する。 ・教科書の地図を短時間でノートに書き写す方法を発問され、最終的に三角形で描くという方法に気付く。次に実際の三角形地図を描き、海洋名・大陸名を発問され正しい地名に気付く。 ・「日本史と世界史のつながり」については、個々の歴史授業の中で同時代の世界史的事例と日本史的事例を対照し、興味関心を惹き付けるとともに世界と日本のつながりに気付く。 ・「日常生活に見る世界の歴史」についても、個々の歴史授業の中で衣食住や行事に触れ、馬・胡椒・絹・茶などが世界史の大きな流れを作った点に気付く。

	学習指導要領	葛飾総合高校 学カスタンダード
(2) 諸地域世界の形成	畜を基礎とする諸文明を築き上げ、やがてそれらを基により大きな地域世界を形成したことを把握させる。 ア 西アジア世界・地中海世界 西アジアと地中海一帯の地理的特質、オリエント文明、イラン人の活動、ギリシア・ローマ文明に触れ、西アジア世界と地中海世界の形成過程を把握させる。 イ 南アジア世界・東南アジア世界 南アジアと東南アジアの地理的特質、インダス文明、アーリヤ人の進入以後の南アジアの文	・歴史学習で重要基本事項である年代について、西暦の成立と紀元前（BC）・紀元後（AD）の呼称および100年単位の世紀（C）を、確実に記憶する。 ・猿人から新人までの人類の進化、採集・狩猟から農耕・牧畜への生活の変化、都市国家・金属器・文字の成立による文明の誕生、人種・民族・語族の分類について理解する。 [西アジアの地理的特質とオリエント文明] ・オリエント文明においては、大河を利用した治水・灌漑かんがいを行うために、宗教的権威による神権政治が出現したことを理解する。 ・メソポタミアにおける諸民族の興亡、エジプトの統一国家の形成、東地中海の諸民族の活動を理解するとともに、オリエント文明の特徴を把握する。 [イラン人の活動] ・オリエント世界がアケメネス朝によって統一されるまでの歴史的経緯を理解する。 ・アレクサンドロス大王死後の西アジア世界におけるパルティア、ササン朝の興亡とゾロアスター教などのイラン文明の特徴を理解する。 [地中海世界の地理的特質とギリシア・ローマ文明] ・地中海一帯の土壌と農業の特徴から、地中海の交易が発達した理由を理解する。 ・エーゲ文明の特徴、ポリスの形成過程、ポリス社会の特徴を理解する。 ・アテネにおける民主政の成立過程を、ペルシア戦争を含めて理解するとともに、ポリス社会の衰退の過程を理解する。 ・ポリスの変容からヘレニズム世界の形成までの歴史的過程を理解する。 ・ローマ帝国の興亡の歴史的過程を政治制度の推移や征服活動などから理解する。 ・キリスト教の迫害から国教化に至る過程を皇帝崇拝との関係から理解する。 [南アジアの地理的特質] ・中央アジア・西アジアと西北インドを結ぶカイバル峠越えの道の重要性を理解する。

学習指導要領	葛飾総合高校 学カスタンダード
化、社会、国家の発展、東南アジアの国家形成に触れ、南アジア世界と東南アジア世界の形成過程を把握させる。 ウ 東アジア世界・内陸アジア世界 東アジアと内陸アジアの地理的特質、中華文明の起源と秦・漢帝国、遊牧国家の動向、唐帝国と東アジア諸民族の活動に触れ、日本を含む東アジア世界と内陸アジア世界の形成過程を把握させる。	[インダス文明] ・遺跡から出土した品々から、インダス文明の特徴を理解する。 [アーリヤ人の進入以後の南アジアの文化、社会、国家の発展] ・北インドにおけるマウリヤ朝・クシャーナ朝・グプタ朝・ヴァルダナ朝などの古代王朝の変遷と各王朝の支配領域と文化的特徴や、デカン高原以南のドラヴィダ系の地域におけるローマ帝国との交易関係について理解する。 ・「インド教」とも呼ばれるヒンドゥー教の成立過程とその特徴を理解する。 ・上座部仏教と大乘仏教の相違を理解するとともに、それぞれの諸地域への伝播の様子について地図を用いて理解する。 [東南アジアの地理的特質と国家形成] ・半島部と島嶼部の地形的な特徴や産業の様子を理解する。 ・半島部、島嶼部における諸国家の興亡と宗教的な特徴を理解する。 [東アジア世界の地理的特質] ・中国の黄河流域と長江流域の気候と農業の特徴を理解する。 [中華文明の起源と秦・漢帝国] ・仰韶文化と竜山文化の特徴、殷と周の支配体制の特徴、甲骨文字の役割を理解する。 ・春秋戦国時代の政治勢力の興亡、農業技術と貨幣経済の発展、諸子百家の代表的な思想の特徴を理解する。 ・秦の始皇帝の統治政策、漢の統治政策の推移、武帝の時代の対外遠征、漢代の文化の特徴などを理解する。 [内陸アジアの地理的特質と遊牧国家の動向] ・青銅製の馬具や武器を持った騎馬遊牧民の活動の特徴を理解する。 ・匈奴が冒頓単于の時代に強大化し、漢を圧迫した経緯やその後、漢の武帝の遠征を受け衰退した経緯を理解する。 ・三国時代・五胡十六国時代・南北朝時代の諸国家の興亡や社会経済の変化、魏晉南北朝の文化の特徴を理解

学習指導要領	葛飾総合高校 学カスタンダード
エ 時間軸からみる諸地域世界 主題を設定し、それに関連する事項を年代順に並べたり、因果関係で結び付けたり、地域世界ごとに比較したりするなどの活動を通して、世界史を時間的なつながりに着目して整理し、表現する技能を習得させる。	する。 [唐帝国と東アジア諸民族の活動] ・均田制・租庸調制・府兵制・科挙を基盤とした隋・唐帝国の支配体制と唐代の国際性豊かな文化の特徴を理解する。 ・突厥・ウイグル・吐蕃・南詔などの周辺国家の特徴と唐との関係を理解する。 ・新羅による朝鮮半島の統一の歴史的過程を理解する。 ・設定した主題について、年表や模式図にまとめ、歴史的事象の前後関係を把握して、因果関係を明らかにすることができる。

学習指導要領	葛飾総合高校 学カスタンダード
(3) 諸地域世界の結合と変容 ユーラシアの海域及び内陸のネットワークを背景に、諸地域世界の交流が一段と活発化し、新たな地域世界の形成や再編を促したことを把握させる。 ア イスラーム世界の形成と拡大 アラブ人とイスラーム帝国の発展、トルコ系民族の活動、アフリカ・南アジアのイスラーム化に触れ、イスラーム世界の形成と拡大の過程を把握させる。 イ ヨーロッパ世界の形成と展開 ビザンツ帝国と東ヨーロッパの動向、西ヨーロッパの封建社会の成立と変動に触れ、キリスト教とヨーロッパ世界の形成と展開の過程を把握させる。	[アラブ人とイスラーム帝国の発展] ・「コーラン」、イスラーム暦、六信五行などイスラーム教の特徴を理解する。 ・正統カリフ時代、ウマイヤ朝、アッバース朝におけるジハードの展開と統治政策を理解する。 ・エジプトに展開したファーティマ朝、アイユーブ朝、マムルーク朝の興亡を理解するとともに、イスラーム世界の中心がバグダードからカイロに移ったことを理解する。 [トルコ系民族の活動] ・セルジューク朝、カラハン朝、ガズナ朝などのトルコ系国家の興亡やイル=ハン国による西アジア支配について理解する。 [アフリカ・南アジアのイスラーム化] ・デリーに本拠を置いたインドのイスラーム諸王朝の興亡、東南アジアにおけるマラッカ王国、アフリカにおけるマリ王国やソンガイ王国の興亡を理解する。 [イスラーム文明] ・固有の学問と外来の学問について、具体的な事例に即して理解する。 [ビザンツ帝国と東ヨーロッパの動向] ・ユスティニアヌス帝時代のビザンツ帝国の繁栄と、ユスティニアヌス帝死後のビザンツ帝国の衰退の過程を理解する。 ・スラヴ人国家の興亡を理解するとともに、東スラヴ・南スラヴの諸民族がビザンツ文化とギリシア正教を、西スラヴ人が西欧文化とローマ=カトリックの影響を受けたことを理解する。 [西ヨーロッパの封建社会の成立と変動] ・ゲルマン人の大移動後にフランク王国が強大化し、ローマ=カトリック教会と提携することで、西ヨーロッパ世界の中心勢力となったことを理解する。 ・封建社会における荘園の構造と封建的主従関係による階層組織を理解する。 ・十字軍の活動をはじめとする 11 世紀以降の西ヨーロッパ世界の拡大、中世都市の特徴、封建社会の変容について理解する。

学習指導要領		葛飾総合高校 学カスタンダード
ウ 内陸アジアの動向と諸地域世界 内陸アジア諸民族と宋の抗争、モンゴル帝国の興亡とユーラシアの諸地域世界や日本の変動に触れ、内陸アジア諸民族が諸地域世界の交流と再編に果たした役割を把握させる。		・教皇権の衰退の過程と各国における国王権の伸長について理解する。 [キリスト教とヨーロッパ世界の形成と展開] ・キリスト教を中心とした中世ヨーロッパ文化について、具体的な事例から理解する。
	エ 空間軸からみる諸地域世界 同時代性に着目して主題を設定し、諸地域世界の接触や交流などを地図上に表したり、世紀ごとに比較したりするなどの活動を通して、世界史を空間的なつながりに着目して整理し、表現する技能を習得させる。 アジアの繁栄とヨーロッパの拡大を背景に、諸地域世界の結合が一層進展したこととともに、主権国家体制を整え工業化を達成したヨーロッパの進出により、世界の構造化が進み、社会の変容が促されたことを理解させる。	[内陸アジア諸民族と宋の抗争] ・ソグド人の活動とトルキスタンの成立、トルコ人のイスラーム化の過程を理解する。 ・契丹・女真と宋との軍事的抗争と経済関係について理解するとともに、契丹・女真の二重統治体制の特徴を理解する。 ・宋の文治主義統治と士大夫との関連を理解する。 ・宋代の都市の発達と貨幣経済の進展、南宋時代の江南の開発について理解する。 ・宋代の文化について、宋学・思想・美術・工芸を中心に理解する。 [モンゴル帝国の興亡とユーラシアの諸地域世界や日本の変動] ・諸ハン国と元の関係を理解し、各領域を地図上で表現できる。 ・元の中国支配の特徴を理解する。 ・駅伝制が発達したモンゴルの陸上交通路と宋代の海上交通路が結び付き、広大なネットワークが形成されたことを理解する。 ・元及び諸ハン国の解体の過程と勃興勢力について理解する。 ・同時代性に着目して設定した主題について、諸地域世界の接触や交流などを地図上に表したり、世紀ごとに比較したりするなどして、歴史的事象の空間的関係を把握し、その時代の世界の特質や地域世界相互のかかわりを明らかにすることができる。

	学習指導要領	葛飾総合高校 学カスタンダード
(4) 地球世界の到来	ア アジア諸地域の繁栄と日本 西アジア・南アジアのイスラーム諸帝国や東南アジア海域の動向、明・清帝国と日本や朝鮮などとの関係を扱い、16世紀から18世紀までのアジア諸地域の特質とそこでの日本の位置付けを理解させる。	[西アジア・南アジアのイスラーム諸帝国や東南アジア海域の動向] ・ティムール朝の興亡とトルコ＝イスラーム文化の繁栄を理解する。 ・オスマン帝国の興亡と国家体制について理解する。 ・ムガル帝国のインド統治について、その宗教政策の変化や、宗教政策と地方勢力の台頭の関係を理解する。 ・ポルトガルやスペインの東南アジア進出とムスリム商人の活動について理解する。 [明・清帝国と日本や朝鮮などとの関係] ・明の成立と明初の統治体制について理解する。 ・明の海禁政策と朝貢体制の確立、北虜南倭への対応が朝貢体制に与えた影響について理解する。 ・清の中国統治の特徴や支配領域の拡大と周辺地域の統治について理解する。 ・日本について、勘合貿易、朝鮮出兵、「鎖国」体制下の海外交易について理解する。
	イ ヨーロッパの拡大と大西洋世界 ルネサンス、宗教改革、主権国家体制の成立、世界各地への進出と大西洋世界の形成を扱い、16世紀から18世紀までのヨーロッパ世界の特質とアメリカ・アフリカとの関係を理解させる。	[ルネサンス、宗教改革、主権国家体制の成立] ・思想・芸術・科学などの分野におけるルネサンスの展開を理解する。 ・ドイツ・スイス・イギリスの宗教改革と対抗宗教改革の具体的な展開を理解する。 ・スペイン・オランダ・イギリス・フランス各国の興亡と三十年戦争の経過と結果を理解する。 [世界各地への進出と大西洋世界の形成] ・ヨーロッパ人による探検の事績を地図上で確認できるとともに、大航海時代の影響として商業革命と価格革命について理解する。 ・アジア市場におけるポルトガル・スペイン・オランダ・イギリス・フランス各国による覇権争いについて理解する。 ・アメリカにおける英仏の植民地争奪を理解する。 ・アメリカにおける砂糖やタバコのプランテーションにアフリカ系奴隷が労働力として使役された背景を理解する。 [17～18世紀のヨーロッパ文化] ・経験論、合理論、ドイツ観念論、自然法思想、啓蒙思

学習指導要領	葛飾総合高校 学カスタンダード
ウ 産業社会と国民国家の形成 産業革命、フランス革命、アメリカ諸国の独立など、18 世紀後半から 19 世紀までのヨーロッパ・アメリカの経済的、政治的変革を扱い、産業社会と国民国家の形成を理解させる。 エ 世界市場の形成と日本 世界市場の形成、ヨーロッパ諸国のアジア進出、オスマン、ムガル、清帝国及び日本などアジア諸国の動揺と改革を扱い、19 世紀のアジアの特質とそこでの日本の位置付けを理解させる。	想の各思想家の思想について理解する。 [産業革命] ・イギリスで最初に産業革命が起こった理由を理解する。 ・産業革命の結果発生した労働問題や社会問題を理解する。 [フランス革命、アメリカ諸国の独立] ・13 植民地の形成からアメリカ合衆国の成立までの過程を、諸外国の動きを含めて理解する。 ・フランス革命の勃発から進展の過程を、革命を主導した社会層の変化に着目しながら理解する。 ・ナポレオンの国内政策と征服活動について理解する。 ・ラテンアメリカ諸国の独立の経過を理解できる。 [19 世紀のヨーロッパ・アメリカの経済的、政治的変革] ・ウィーン体制の成立から動揺・崩壊の過程を理解する。 ・1848 年にヨーロッパ各地で起こった一連の革命・民族運動の経緯を理解する。 ・東方問題とロシアの南下政策、ロシアの改革について理解する。 ・イタリアとドイツの統一運動の過程を理解するとともに、ビスマルク外交のねらいと内容を理解する。 ・アメリカ合衆国の領土拡大の過程や南北戦争後の経済的発展について理解する。 [世界市場の形成とヨーロッパ諸国のアジア進出] ・国際的分業体制におけるアジア諸国の位置付けについて理解する。 [オスマン、ムガル、清帝国及び日本などアジア諸国の動揺と改革] ・西アジアにおいてワッハーブ派やウラービー運動、バーブ運動に見られるイスラーム改革運動やアラブ民族運動が起きたことについて理解する。 ・インドの植民地化を進める中で、イギリス東アジア会社の性格が変化していったことを理解する。 ・東南アジア諸地域でヨーロッパ諸国が大規模なプランテーション経営を展開したこととその影響を理解

学習指導要領	葛飾総合高校 学カスタンダード
オ 資料からよみとく歴史の世界 主題を設定し、その時代の資料を選択して、資料の内容をまとめたり、その意図やねらいを推測したり、資料への疑問を提起したりするなどの活動を通して、資料を多面的・多角的に考察し、よみとく技能を習得させる。 科学技術の発達や生産力の著しい発展を背景に、世界は地球規模で一体化し、二度の世界大戦や冷戦を経て相互依存を一層強めたことを理解させる。また、今日の人類が直面する課題を歴史的観点から考察させ、21 世紀の世界について展望させる。	する。 ・アヘン戦争に至るイギリスの対中国政策の推移、南京条約・北京条約の内容について理解する。 ・太平天国の運動の民族主義的性格について理解するとともに、その後に展開された洋務運動の限界について理解する。 ・明治維新により近代化を進めた日本の対外政策について理解する。 ・設定した主題にかかわる文字資料や、会が、風刺が、写真などの図像資料を取り上げ、内容、糸、狙いなどについて考察し、その時代の人々が自分たちの時代や社会をどうとらえ、どう表現しようとしたかを理解することができる。

学習指導要領		葛飾総合高校 学カスタンダード
(5) 地球 世界の 到来	ア 帝国主義と社会の変容 科学技術の発達、企業・国家の巨大化、国民統合の進展、帝国主義諸国の抗争とアジア・アフリカの対応、国際的な移民の増加などを理解させ、19 世紀後期から 20 世紀初期までの世界の動向と社会の特質について考察させる。	[科学技術の発達、企業・国家の巨大化、国民統合の進展] ・(第一次) 産業革命と比較して、第二次産業革命の特質を理解するとともに、第二次産業革命の結果、市場を独占した巨大企業の諸形態と、その特色を理解する。 [帝国主義諸国の抗争とアジア・アフリカの対応] ・欧米各国の帝国主義政策と国内政策を理解するとともに、欧米諸国間の世界分割競争の経緯と結果を理解する。 ・欧米諸国の支配が強まる中で起きた、辛亥革命、国民会議派の形成、ドンズー運動、青年トルコ革命、イラン立憲革命などの近代化を目指した運動の経緯を理解する。 ・日清戦争から日露戦争に至る経緯について、日本とロシアの対立の背景から理解する。 [国際的な移民の増加] ・世界規模での移民が増加した背景を理解する。 [第一次世界大戦] ・第一次世界大戦中の戦時外交、総力戦における統制経済について理解する。
	イ 二つの世界大戦と大衆社会の出現 総力戦としての二つの世界大戦、ロシア革命とソヴィエト連邦の成立、大衆社会の出現とファシズム、世界恐慌と資本主義の変容、アジア・アフリカの民族運動などを理解させ、20 世紀前半の世界の動向と社会の特質について考察させる。	[ロシア革命とソヴィエト連邦の成立] ・対ソ干渉戦争とソヴィエト政権の経済政策について理解する。 [大衆社会の出現とファシズム] ・ヴェルサイユ・ワシントン体制下で進んだ国際協調の流れを理解する。 ・1920 年代のアメリカ合衆国の「永遠の繁栄」と呼ばれた政治・経済の成熟を理解する ・イタリアでムッソリーニが一党独裁体制を確立していった過程を理解する。 ・ソヴィエト連邦でスターリンが一国社会主義論を唱え、独裁権を握っていった過程を理解する。 [第一次世界大戦後のアジア・アフリカの情勢] ・中国における国民党と共産党の対立、インドにおける国民会議派と全インド=ムスリム連盟の対立について理解する。 [世界恐慌とその後の世界情勢] ・世界恐慌による各国の経済的な打撃を具体的な

学習指導要領	葛飾総合高校 学カスタンダード
ウ 米ソ冷戦と第三世界 米ソ両陣営による冷戦の展開、戦後の復興と経済発展、アジア・アフリカ諸国の独立とその後の課題、平和共存の模索などを理解させ、第二次世界大戦後から 1960 年代までの世界の動向について考察させる。	指標から理解するとともに、アメリカ合衆国のニューディール政策の進展について理解する。 ・満州事変から日中戦争に至る過程やナチス＝ドイツが独裁権を確立していった過程を理解する。 ・スターリンの独裁体制が確立していった時期のソヴィエト連邦の外交政策について理解する。 [第二次世界大戦] ・スペイン内戦から第二次世界大戦勃発前までのヨーロッパの国際情勢について理解する。 ・ヨーロッパにおけるドイツの、アジア・太平洋地域における日本の勢力拡大を地図上で理解する。 ・第二次世界大戦中に行われた首脳会談の内容について理解する。 [米ソ両陣営による冷戦の展開] ・国際連合の主要機関の役割とともに、国際的な経済・金融の協力体制の形成について理解する。 ・戦後の東・西ヨーロッパの情勢とトルーマン＝ドクトリンやマーシャル＝プランが出された経緯を理解する。 ・ドイツの東西分断、中華人民共和国の成立、ヴェトナムの情勢、朝鮮戦争などから冷戦体制が世界化していく過程を理解する。 [戦後の復興と経済発展] ・西ヨーロッパ統合の流れを理解する。 ・日本が朝鮮特需で経済復興を果たし、ソ連との国交回復と国際連合加盟で国際社会への復帰を果たした過程を理解する。 [アジア・アフリカ諸国の独立とその後の課題] ・東南アジア・南アジア・西アジア諸国の独立の過程とアフリカ諸国の独立が進み、1960 年が「アフリカの年」と呼ばれたことを理解する。 ・平和五原則の提唱、アジア＝アフリカ会議や非同盟諸国首脳会議の開催がもつ歴史的意義を理解する。 ・アジア・アフリカの新興独立国の多くが慢性的な貧困に苦しみ、国際機関や欧米諸国の援助に依存せざるを得なかったことを理解する。 [平和共存の模索]

学習指導要領	葛飾総合高校 学カスタンダード
エ グローバル化した世界と日本 市場経済のグローバル化とアジア経済の成長、冷戦の終結とソヴィエト連邦の解体、地域統合の進展、知識基盤社会への移行、地域紛争の頻発、環境や資源・エネルギーをめぐる問題などを理解させ、1970年代以降の世界と日本の動向及び社会の特質について考察させる。 オ 資料を活用して探究する地球世界の課題 地球世界の課題に関する適切な主題を設定さ	・キューバ危機を契機に米ソの緊張緩和の方向が現れ、核兵器の拡大を制限する交渉が始まったことを理解する。 ・1950年代の「スターリン批判」やハンガリー事件、1960年代の「プラハの春」をめぐる動きなど、東側陣営の変化を理解する。 ・中ソ対立の推移とプロレタリア文化大革命後の中国の変化を理解する。 ・ヴェトナム戦争の経過と結果、アメリカ合衆国の経済に与えた影響を理解する。 [市場経済のグローバル化とアジア経済の成長] ・アメリカ合衆国の貿易収支が赤字になった背景を理解する。 ・第四次中東戦争の勃発と第一次石油危機の発生を理解する。 ・先進工業国で、省エネ対策、代替エネルギーの開発、先進技術開発が進む中で、貿易摩擦が激化したことを理解する。 [冷戦の終結とソヴィエト連邦の解体] ・中国における改革・開放路線の推進と天安門事件、ヴェトナムにおけるドイ＝モイ政策の推進を理解する。 ・ソヴィエト連邦のペレストロイカが東欧諸国の民主化に与えた影響を理解する。 ・東欧諸国の民主化、冷戦の終結、ソヴィエト連邦の解体の一連の歴史的過程を理解する。 [地域統合の進展] ・EUの取組をECと比較し、EUの特徴を理解する。 [地球的諸課題をめぐる問題] ・旧ユーゴスラヴィア内戦の原因と経過、結果を理解する。 ・2001年に発生した同時多発テロ事件とその後の対テロ戦争について理解する。 ・環境や資源・エネルギー問題が発生してきた歴史的背景を理解する。 ・地球世界の課題に関して設定した主題について、資料を用いて探求し、これからの世界と日本の在り方や世

学習指導要領		葛飾総合高校 学カスタンダード
	せ、歴史的観点から資料を活用して探究し、その成果を論述したり討論したりするなどの活動を通して、資料を活用し表現する技能を習得させるとともに、これからの世界と日本の在り方や世界の人々が協調し共存できる持続可能な社会の実現について展望させる。	界の人々が協調し共存できる持続可能な社会の実現について展望することができる。